



虹のかけはし



〒528-0074

滋賀県甲賀市水口町松尾 1256 番地

TEL : 0748-62-0234 (代) FAX : 0748-63-0588 <http://www.kohka-hp.or.jp/>



新透析室の展望

内科副部長 渋谷 和之

皆様こんにちは、新しく人工透析室室長に着任いたしました腎臓内科の渋谷です。どうぞよろしくお願い致します。新病院移転に際して、腎疾患および透析関連疾患におきましても近隣施設よりご協力頂き誠に有難うございました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

さて、新人工透析室の概要ですが、平成25年4月の時点で34床でしたが、血液透析患者さんの増加に伴い8月の時点で36床に増床しております。血液透析患者数は増加の一途を辿っており、甲賀・湖南地域のニーズに対応すべく最大48床まで増床できるよう設計されております。現病床では月水金、火木土それぞれ1クールずつ最大72名に対応することが可能となっており、入院も含めると現在70名弱の方が血液透析を施行されております。

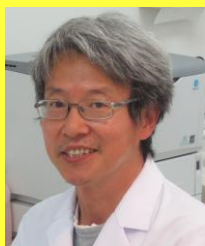
サービスの面からは、これまでの夜間透析枠が無くなり、お仕事をされている方のニーズに配慮されなくなったことは誠に残念ですが、昼間(朝)透析枠のサービス向上を目指しております。これまで4時間までの透析時間への対応としておりましたが、5時間の透析時間も設定しました。さらに、透析アミロイドーシスなど長期透析の合併症を抱えた方にも優しい透析療法を受けていただけるようオンラインHDF開始への準備を進めております。また「いきいき月間」と称し、透析スタッフのみならず薬剤部・検査部・リハビリテーション・歯科など多くのスタッフと患者さん・ご家族が合同で取り組み、集約的に健康管理ができるようなプランも運用しております。

また、腹膜透析の維持管理も少ないながら行っております。遠方で頻回の受診が困難な方など、腹膜透析での在宅自己管理を希望されている方がいらっしゃればお気軽にご連絡下さい。

その他、血漿交換、LDL吸着、顆粒球除去、持続血液濾過透析(CHDF)、エンドトキシン吸着、直接血液吸着などの特殊な血液浄化法も施行可能です。腎不全のみならず、肝不全、自己免疫疾患、高脂血症、潰瘍性大腸炎、敗血症などの疾患にも対応できますので必要な際はご相談下さい。

以上の様に、血液透析のみならず腹膜透析や血液浄化療法を充実させ、より多くの疾患治療に役立てたいと考えております。そして、透析療法におきましても、安全でより患者さまに優しく健康を第一に考えた透析療法の確立を目指していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。





当院の小児救急診療体制と食物経口負荷試験

小児科 部長 岩井 義隆

当院小児科は医師3人で診療しています。スタッフの専門分野を紹介しますと、八木医師は国立循環器病センターでレジデントを修了し、循環器、新生児が専門です。安藤医師は、南京都病院で重症心身障害児のケアや小児結核を研修しました。私はアレルギー疾患、喘息、乳幼児のアトピー性皮膚炎、食物アレルギーを専門としています。昨年、調布市で、給食での食物アレルギーによる死亡事故がおき、学校園でのアナフィラキシー予防対策が急務になっています。ただ、乳児期に蕁麻疹などのアレルギー症状をきたして、食物アレルギーと診断され、そのまま、同じ食品の除去を入学前まで継続している児も見られます。制限の解除が可能かの判定には、RASTなどの検査だけでなく、食物経口負荷試験による確認が必要です。当院では、アナフィラキシー出現に対応できる形で、入院あるいは外来で、経口負荷試験を実施しています。事前に一度、受診いただき、血液検査や摂取状況、アナフィラキシーの状況を確認後、危険性について説明、家族承諾をいただいて、後日実施しています。また、アナフィラキシー発現時のエピネフリン自己注射薬、エピペン[®]も必要例に処方しています。その際、学校関係者をまじえて、緊急時の対応、どの時点でエピペンを使用して救急搬送いただくかなど、協議が必要と考えています。

最後に当院の小児救急診療体制について紹介させて下さい。当院では小児科入院症例の約40%は夜間休日の入院です。現在、地域の先生方の協力のもと土曜13-18時、日曜祝日8-18時まで、地域連携小児救急診療を行い、平日、年末年始も含め、日勤帯から18時までは小児科医が院内にいます。夜間18時以降は内科当直医に依頼した診療となりますが、救急車搬送や紹介患者は小児科医が対応します。例えば、高熱が持続して週末の状態が気になる患児がございましたら、診療内容を紹介状の形で、家族に持参いただき、もし週末状態がご心配ならいつでも、当院救急外来を受診いただければと思います。経過観察後、軽快されれば、また逆紹介させていただきます。





回復期リハビリテーション病棟の紹介

5階西病棟看護師長

植松 あさ子

リハビリテーション課係長

龍本 隆

はじめまして、回復期リハビリテーション病棟です。

平成25年4月より、病床数46床の回復期リハビリテーション病棟が開設されました。

当病棟は、急性期治療が終了した脳血管疾患や大腿骨骨折などの患者さんに対し、集中的な機能回復リハビリテーションと日常生活動作練習を実施し、早期に自宅復帰が可能となるように支援する病棟です。

当病棟では専任医師（清水院長）をはじめ、看護師・介護福祉士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・社会福祉士・薬剤師・管理栄養士などの職種が連携して患者さんに関わり、定期的なカンファレンスで日常生活動作の評価・リハビリ目標の再設定を繰り返し行っています。リハビリの目標達成のため療法士による週6日1日1時間以上のリハビリ（理学療法、作業療法、言語療法）と、病棟での看護師、介護士による毎日の日常生活動作練習（着替え・入浴・排泄時の動作等）を行っています。

リハビリテーション室では手すりの位置や高さを自宅と同じ環境に設定できる浴室やトイレを利用して、退院後の生活を想定した日常生活動作練習を実施しています。さらに病棟では炊事や洗濯、さらに余暇としての散歩・園芸を行っています。

新病院から回復期リハビリテーション病棟が開設されたことにより、今まで疾患の急性期治療が終了した時点で退院されていた患者さんに対して、自宅での日常生活に即したリハビリテーションを提供し、本人および家族がより安心して自宅へ退院していただけるようになればと思います。



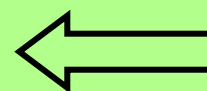
病棟スタッフ



カンファレンス風景



リハビリテーション室
練習用トイレ・練習用浴室



病棟での日常生活動作練習





第39回 健康講座が、7月27日（土）開催されました

in サンライフ甲西

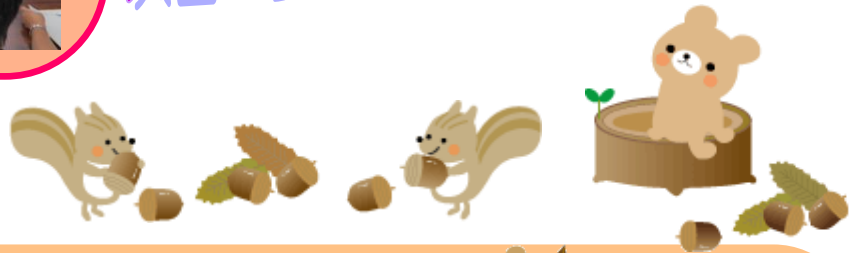


今回の講座では「増え続ける糖尿病～正しく学んで、しっかり防ごう！治そう！～」をテーマとし、当院の医師より講演をさせていただきました。

今回は、114名のご参加をいただきました。多数のご参加ありがとうございました。

次回の参加もお待ちしています！！

講座案内



◎公立甲賀病院 第6回がん医療講演会

日時：平成25年11月16日（土）

時間：14時30分～17時（開場：14時）

場所：公立甲賀病院 2階 講堂

内容：「知って得するがん医療」

講師：第1部 基調講演 テーマ「放射線治療について」

講師 公立甲賀病院 放射線科部長 邵 啓全 医師

第2部 特別講演 テーマ「がんはこわくないー敵をよく知ろうー」

講師 京都府地域医療支援センター長 山岸 久一 先生



編集後記

気づけばもう8月になり、秋が近くなってきました。とはいえやはり暑いですが、けれど考えようによっては、暑いのも季節感があっていいのではないかと思います。

また、私は実家住まいで、蚊取り線香を家でたいています。去年は使っていなかったのですが、この匂いも改めて嗅いでみると夏らしいです。まだまだ残暑が厳しいですが、こういうちょっとした気づきで季節の感じ方も変わるのではないのでしょうか？（Y）

